

# 「カナディアンキャンプスタディツアー」の研修報告

## Report on “Canadian Camp Study Tour”

青 木 康 太 朗	田 中 祥 子	新 田 和 子
Kotaro AOKI	Sachiko TANAKA	Kazuko NITTA
嶋 結 子	外 山 真 理	是 常 景 子
Yuko SHIMA	Mari TOYAMA	Keiko KORETSUNE

北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報 第4号 2013

Bulletin of the Northern Regions Lifelong Sports Research Center Hokusho University Vol.4

## 「カナディアンキャンプスタディツアー」の研修報告

### Report on “Canadian Camp Study Tour”

青木 康太郎<sup>1)</sup> 田中 祥子<sup>2)</sup> 新田 和子<sup>2)</sup>  
嶋 結子<sup>2)</sup> 外山 真理<sup>2)</sup> 是常 景子<sup>2)</sup>

Kotaro AOKI Sachiko TANAKA Kazuko NITTA  
Yuko SHIMA Mari TOYAMA Keiko KORETSUNE

キーワード：カナダ，キャンプ，スタディツアー

#### I. はじめに

我が国のキャンプの始まりは諸説あるものの、1911年（明治44年）に学習院院長である乃木希典の提唱によって行われた学習院のスカウト式臨海キャンプが始めと言われている<sup>1)</sup>。その後、ボーイスカウトやガールスカウト、YMCA、YWCA<sup>註1)</sup>といった民間団体によって青少年を対象とした教育キャンプやレクリエーションキャンプが行われるようになり、現在の組織キャンプの礎が作られていった。今日に至るまでの約100年の間、我が国のキャンプは、イギリスを始め、アメリカやドイツ、カナダといった欧米諸国の影響を強く受けながら大きな発展を遂げてきた歴史がある。

1905年（明治38年）に地域YWCAのひとつとして設立された東京YWCAは、長野県野尻湖畔に約45,000坪の広大なキャンプ場（野尻キャンプ場）を所有し、これまで多くの青少年に様々な教育キャンプ（Organized Camp）を提供することで我が国のキャンプの発展に貢献してきた。この野尻キャンプ<sup>註2)</sup>は、1931年（昭和6年）にカナダの宣教師エマ・カフマン女史（Emma Kaufman）によって始められ、2012年で創設80周年を迎えることとなった。そこで、東京YWCAは、野尻キャンプ場80周年を記念するイベントのひとつとして「カナディアンキャンプスタディツアー」を企画し、カナダの代表的なキャンプ場や団体の視察・訪問、現地のキャンプ指導者や青少年との交流、各種アウトドアアクティビティの体験といった体験型のスタディツアーを催した。

本論は、カナディアンキャンプスタディツアーで行わ

れた視察や交流、体験等の様子について報告するものである。

#### II. カナディアンキャンプスタディツアー

##### 1. ツアーの概要

「カナディアンキャンプスタディツアー」（以下、「ツアー」という。）は、2012年9月15日（土）から22日（土）の8日間で行われた。しかし、機体トラブルにより15日に出国ができなかったため、当初予定していたスケジュールを変更して16日からのスタートとなった。

ツアーの主催者は公益財団法人東京YWCAであったが、現地の協力団体としてキャンプ・タウインゴ（詳細は後述の「キャンプ・タウインゴ」を参照）がツアーの案内や調整を行ってくれた。ツアーの参加者は、野尻キャンプのリーダーや東京YWCAの職員などキャンプ指導に携わる大学生や社会人15名（男性3名、女性12名）であった。ツアーの主なスケジュールは表1のとおりである。ツアーの内容は、オンタリオ州の主なキャンプ場や施設（Hollows Camp, YMCA Geneva Park, Camp Tawingo, Glen Bernard Camp, Kitchener Waterloo YWCA, Tim Horton Onondaga Farms）の視察・訪問、タウインゴ・カレッジ（Tawingo College）の子どもたちとの交流、キャンプ・タウインゴでのハイキング、カヌー・カヤック、キャプファイアといったアクティビティ体験、そして野尻キャンプの創設者であるエマ・カフマン女史のお墓参り等であった。

1) 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

2) 公益財団法人東京YWCA

表1 主なスケジュール

月 日	内 容
9月16日(日)	・トロント・ピアソン国際空港 入国
9月17日(月)	・ホローズ・キャンプの視察 ・YMCA ジュネーブパークの視察 ・アクティビティ体験：クラフト（ネームタグづくり） ・キャンプ・タウインゴでのウェルカムパーティ
9月18日(火)	・キャンプ・タウインゴの視察 ・タウインゴ・カレッジとの交流会 ・アクティビティ体験：ハイキング、カヌー・カヤック、イニシアティブゲーム等
9月19日(水)	・グレンバーナード・キャンプの視察 ・ハンツビルの観光 ・アクティビティ体験：キャンプファイア
9月20日(木)	・キッチナー・ウォータールー YWCA の訪問 ・エマ・カフマン女史のお墓参り ・ティムホートン・オノンダガファームの視察
9月21日(金)	・トロント・ピアソン国際空港 出国

## 2. ツアーの様子

機体トラブルにより、予定より1日遅れてトロント・ピアソン国際空港に到着した。空港では、キャンプ・タウインゴのディレクターであるジョギー氏（Jorgi）と2名のスタッフが出迎えてくれた（写真1）。ジョギー氏は、オンタリオキャンプ協会やカナダキャンプ協会の会長を歴任するとともに、現在は国際キャンプ連盟<sup>注3)</sup>の幹事として世界的に活動しているキャンプ指導者で、今回のツアーのコーディネーターと案内はすべて彼が行ってくれた。

### 1) ホローズ・キャンプ

最初に視察したキャンプ場は、トロント北部にあるホローズ・キャンプ（Hollows Camp）であった（<http://www.hollowscamp.com/>、2013年5月26日参照）。ホローズ・キャンプは1981年に余暇学博士であるスティープ氏と乗馬のインストラクターであるジャンネツ

ト氏が設立したキャンプ場で、乗馬やトランポリン、マウンテンバイク、テニス、アーチェリー等が主な活動となっている。

中でも乗馬はホローズ・キャンプのメインプログラムとなっており、10～16歳の青少年を対象にホースクラブとして週2回放課後のプライベートレッスンをしている。レッスンは4・6・8回のパッケージになっており、レッスン料（1時間）はプライベートレッスンで50カナダドル、セミプライベートレッスンで40カナダドルとなっている。ホースクラブのメンバーは毎年様々な乗馬大会に出場し、多くの大会で入賞している（写真2）。

また、6月から8月にかけては7～15歳の青少年を対象とした1～2週間のサマーキャンプを10プログラム実施している。1プログラムの定員は60名で、参加費は2週間のプログラムが1,800カナダドル、1週間



写真1 Jorgi, Blues, Thomas の出迎え



写真2 Hollows Camp の馬とのふれあい

のプログラムが750カナダドルとなっている。このサマーキャンプの他にも、16～17歳の青年を対象にしたリーダーシッププログラムや地元の住民を対象にしたデイキャンプ等も行われており、毎年5～9月の間に400人ほどの利用があるとのことであった。

## 2) YMCA ジュネーブパーク

トロントから90分、カウチニング湖東岸の半島に位置するYMCAジュネーブパーク (YMCA Geneva Park) は、シムコー／ムスコカ YMCA が所有する施設のひとつである (<http://www.ymcaofsimcoemuskoka.ca/>, 2013年5月26日参照)。YMCA ジュネーブパークでは企業研修からファミリーキャンプまで幅広いプログラムを提供しており、年間利用者は15,000人を超える。施設には700名を収容できる宿泊施設 (スイートルーム10室, コテージ41棟, ベッドルーム96室) と250席の食堂等がある。施設の運営は通常65名のスタッフで行っているが、夏の繁忙期にはボランティアを含めて約180名のスタッフで運営を行っている。

プログラムサービスの方針として、雇用と地域社会に関するサービス、健康・フィットネス・レクリエーション、リーダーシップトレーニングや野外教育、カンファレンスの場の提供、新人教育、チャイルドケア、キャンプが掲げられている (写真3)。そのうち、リーダーシップトレーニングやチームビルディングはYMCA ジュネーブパークのメインプログラムのひとつとなっており、その対象は学生に限らず、企業の新人から重役に至るまで幅広く行われている。また、豊かな自然環境を生かして、夏はカヌーやカヤック、ウィンドサーフィン、パドルボートといった水辺活動、冬はクロスカントリースキーやスノーシュー、スケートといった雪上活動など様々な野外活動も行われているとのことであった。

## 3) キャンプ・タウインゴ

オンタリオ州ハンツビルのヴァーノン湖の畔にあるキャンプ・タウインゴ (Camp Tawingo) は、子どもたちのために安全と健康、伝統を大切にしたいとの思いから、1961年にジャック氏とヘレン氏によって設立されたキャンプ場である (<http://www.tawingo.net/>, 2013年5月27日参照) (写真4)。創設者のジャック・ピアース氏 (Jack Pearse) は、国際キャンプ連盟の創設に尽力し、その後10年間、国際キャンプ連盟の会長を務めるなど世界的に有名なキャンプ指導者である。そのため、キャンプ・タウインゴはキャンプの世界では広く知られたキャンプ場となっており、日本からも多くのキャンプ関係者が視察や研修に訪れている。

このツアーでは、17日から20日までの4日間キャン



写真3 Programs service

プ・タウインゴに滞在し、ここを拠点に他のキャンプ場の視察を行ったほか、様々なアクティビティ体験やタウインゴ・カレッジの子どもたちと交流も行った。

### ① キャンプ場の視察

220エーカー (東京ドーム約19個分) という広大な敷地を有するキャンプ・タウインゴには、8～10人が泊まれるキャビンが約80棟あり、キャビンによっては温水のシャワーや洗面所が付いている棟もあった。また、ファイアサークルやアーチェリー場、バスケットコート、テニスコート等といった屋外施設、クラフトやミーティングができる屋内施設も多数あり、様々な活動に対応できる環境が整えられていた (写真5)。



写真4 Camp Tawingo

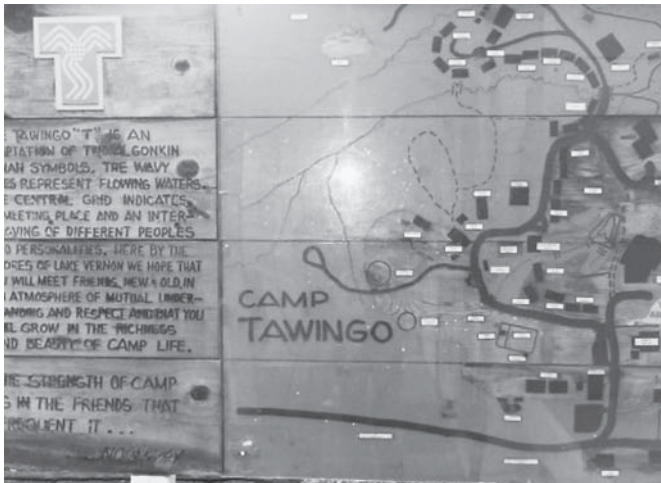


写真5 キャンプサイトの案内図

このキャンプ場で特徴的だったのは、入り口に設置されたトーテムポール（写真6）である。このトーテムポールはキャンプでの子どもの成長過程を示しており、下から順にキャンパー⇒タートル⇒フォックス⇒イーグルを表した模様が刻まれている。これは、最初はカメのように縮こまっているキャンパーも、キャンプを通して最後にはワシのように大きく羽ばたくようになってほしいとの願いを表しているとのことであった。

またキャンプ場には、アウトトリップに必要なキャンプスキルのレベルをタートル、フォックス、イーグルの3段階で示した表（写真7）が張られており、タートルレベルであれば「調理やテントサイト設営の補助ができる」、「キャビンの清掃ができる」、「飲み水を浄化できる」といった初歩的なスキルが示されており、イーグルレベルになると「3泊以上の外泊した経験がある」、「グループの食事の準備ができる」、「テントサイト設営の指導ができる」、「1日のルートを案内できる」といったスキルが示されていた。



写真6 トーテムポール



写真8 カヤック体験

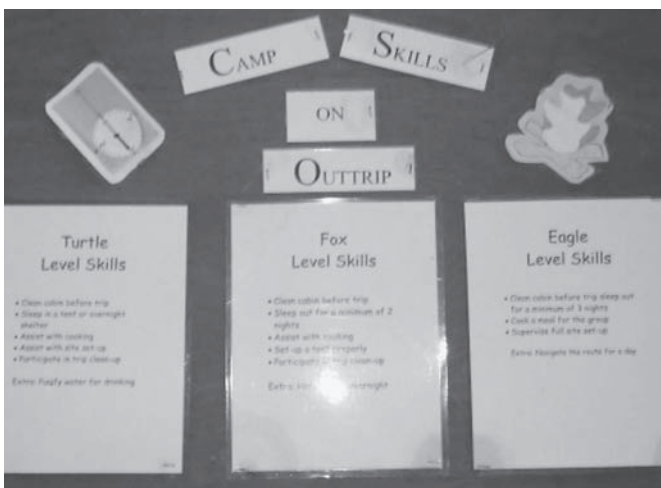


写真7 キャンプスキルのレベル



写真9 イニシアティブゲームの指導

② アクティビティ体験

美しい水辺と豊かな森林に囲まれたタウインゴでは、カヌーやカヤック、水泳といった水辺活動をはじめ、ハイキングやオリエンテーリング、アーチェリー、イニシアティブゲームといった野外活動、テニス、バドミントン、サッカー、ラクロスといったスポーツなど様々な活動ができるようになっており、ツアー期間中いくつかのアクティビティを体験することができた。

タウインゴに到着した17日は、夜にウッドクラフトのネームタグづくりを行った。翌18日は、午後から敷地内にあるイーグルマウンテンのハイキングとカヌー・カヤック体験(写真8)を行い、夜はジョギー氏によるイニシアティブゲームの指導(写真9)やサンダンスが披露された。そして19日の夜は、ジョギー氏やタウインゴのスタッフと一緒に暖かい火を囲んでキャンプファイアを行い、みんなでキャンプソングを歌いながらタウインゴでの最終の夜を楽しんだ。

③ タウインゴ・カレッジとの交流会

キャンプ・タウインゴの敷地内には、タウインゴ・

カレッジ(Tawingo College)という私立学校がある。カナダの教育は州政府によって管轄されており、各州の教育省が教育水準を設定し、地域的な特色や文化、歴史等を反映したカリキュラムを組むようになっている。また義務教育期間も州によって異なり、タウインゴのあるオンタリオ州の義務教育は6歳(1年生)から13歳(8年生)までとなっている<sup>2)</sup>。なお、タウインゴ・カレッジは、幼稚園から8年生までの初等・中等教育の学校である。

交流会は、授業時間を使って行われたため75分という短い時間で行われた(表2)。少しでも日本の文化が伝わるようにと日本から持参したはちまきとはっぴを着用して交流会に臨んだ。交流会の進行はこちらで行い、最初は英語の歌を歌ったり、日本のキャンプで行われるゲーム(猛獣狩り)をしながら場の雰囲気盛り上げていき、その後、紙風船やけん玉、折り紙(写真10)、ロープのプレスレットづくりといった日本の伝統遊びを紹介、最後に全員で盆踊りをして交流会を終了した。

表2 交流会のプログラムの流れ

11:00	歌: Hello あいさつ 歌: ユポイ ゲーム: 猛獣狩り
11:30	クラフト ・紙風船とけん玉 ・手裏剣(折り紙) ・ロープのプレスレット ・折り紙 ・毛糸のボンボン
11:55	盆踊り 歌: さよなら
12:15	終了



写真11 ロープスコース



写真10 折り紙体験

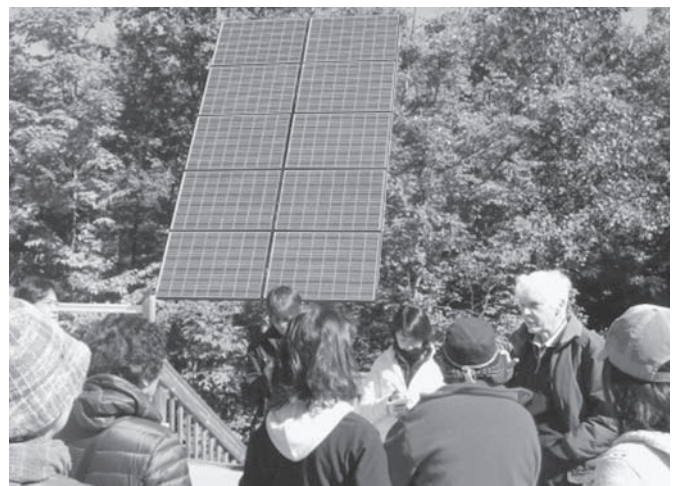


写真12 ソーラーパネル

#### 4) グレンバーナード・キャンプ

オンタリオ州ハンツビル北部に位置するグレンバーナード・キャンプ (Glen Bernard Camp) は、1922年、女子の自信や自立心をはぐくむことを目的にメアリー S・エドガー女史 (Mary S. Edgar) が設立したキャンプ場で、1977年からはジョセリン・パーム氏 (Jocelyn Palm) がこのキャンプ場のオーナー兼ディレクターを務めている (<http://www.gbcamp.com/>, 2013年5月27日参照)。長年キャンプに従事してきたパーム氏は、これまでオンタリオキャンプ協会やカナダキャンプ協会の会長、ロイヤルライフセービング協会の会長などを歴任してきた熟練のキャンプ指導者である。

バーナード湖の畔にあるこのキャンプ場では、設立当初、水泳やカヌーといった水辺活動やバスケットボールやゴルフといったランドスポーツ、演劇や音楽といった文化的な活動が行われていたが、パーム氏がオーナーになった1977年からは将来のプログラムの発展性を考慮して、ロープコース (写真11)、ウィンドサーフィン、マウンテンバイク、木工、陶器、宝石細工、ステンドグラスといった多様な活動を取り入れるようになった。現在、グレンバーナード・キャンプでは、持続可能な社会の実現のため、太陽エネルギーや堆肥トイレ、エネルギー効率の高い照明やソーラーボートを使った独自の環境教育プログラムを開発し、再生可能エネルギーの必要性や環境の持続可能性を教えるとともに、“live lightly”をスローガンに自然と共存する生き方について教育を行っている (写真12)。

また、グレンバーナード・キャンプでは6月から8月にかけてカヌートリップや乗馬、環境活動といった様々なキャンプが行われており、それらの参加費は1週間のプログラムで990カナダドル、2週間のプログラムで1,900カナダドルとなっている。

#### 5) キッチナー・ウォータールー YWCA

キッチナー・ウォータールー YWCA (Kitchener Waterloo YWCA) は女性と子どもを支援する団体として1905年に設立され、初代所長は野尻キャンプを設立したエマ・カフマン女史の母メアリー・カフマン女史 (Mary Kaufman) が務めた (<http://www.ywcakw.on.ca/>, 2013年5月27日参照)。

ここでは、キッチナー・ウォータールー YWCA のスタッフからカフマン家の話を聞いたり、東京 YWCA のスタッフから野尻キャンプの様子が紹介されるなどの交流が行われた (写真13)。その後、カフマン家が火災で全焼した教会を再建した教会を見学したり、エマ・カフマン女史のお墓参りなどを行った。



写真13 野尻キャンプの紹介

#### 6) ティムホートン・オノダガファーム

ティムホートン・オノダガファーム (Tim Horton Onondaga Farms) は、ティムホートン子ども財団 (Tim Horton Children's Foundation) が所有する6つのキャンプ場のひとつである (<http://www.timhortons.com/ca/en/index.html>, 2013年5月27日参照)。ティムホートン子ども財団とは、カナダ最大のコーヒーショップチェーン「ティムホートン」の共同経営者ロン・ジョイスが1974年に設立した財団である。カナダやアメリカには6人に1人の割合で経済的に恵まれない家庭に住む子どもがいると言われており、当財団は経済的に恵まれない家庭に住む8~18歳の子どもたちを無償でキャンプに招待したり、リーダーシッププログラムを修了した青年に奨学金制度を設けて大学への就学支援を行っている。また、コーヒーショップチェーンのティムホートンでは、毎年6月第1週水曜日を「Camp Day」としてその日のコーヒーの売り上げを子どもたちのキャンプの費用に充てており、2012年の売り上げは約1,100万ドル (約8億8千万円) と



写真14 G. R. E. A. T Bead Program

なり、15,000人以上の子どもたちを財団のキャンプに招待している。

我々が視察したオノダガファームは、2002年にオンタリオ州セントジョージに設置された最新のキャンプ場である。400エーカーを超える広大な敷地には、ロープコースやクライミングタワー、野外劇場といった屋外施設、16インチ天体望遠鏡がある天文台やコンピュータ・オーディオ・写真のラボといった屋内施設があり、様々な活動が行える環境になっている。

ティムホートン子ども財団のキャンプの特徴と言えるのが「グレート・ビーズ・プログラム (G.R.E.A.T Bead Program)」(写真14)である。Gは「Goal setting and Achievement (ゴールの設定と達成)」、Rは「Responsible Leadership (信頼されるリーダーシップ)」、Eは「Environmental Awareness (環境への気づき)」、Aは「Adventure, Creativity and Discovery (冒険, 創造, 発見)」、Tは「Teamwork, Friendship and Community (チームワーク, 友情, 共同)」を意味しており、キャンプを通して身につけてもらいたい意識や態度を表している。キャンパーは、キャンプ期間中、G-R-E-A-Tと書いてある5つのビーズがついたブレスレットを身につけることで、これらを意識して活動するようにしているとのことであった。

### Ⅲ. まとめ

今回、カナディアンキャンプスタディツアーを通じてオンタリオ州にある5つキャンプ場を視察し、様々な体験をしたことで、カナダのキャンプの現状やプログラムの在り方について多くの学びを得ることができた。また、カナダのキャンプを見聞したことで、野尻キャンプがカナダのキャンプを起源にしているように、我が国のキャンプが欧米諸国の影響を強く受けていることを改めて実感した。しかし、カナダと日本のキャンプの現状を比較すると、カナダでは1～2週間のキャンプが基本になっているのに対し、日本では2、3泊のキャンプが主流になっており、カナダでは参加費が高くてキャンプに対するニーズがそれなりにあるものの、日本では高いお金を払ってでも子どもをキャンプに行かせようとする家庭は少ないのが現状である。このようにキャンプに対する金銭的・教育的な価値に大きな違いがあることから、日本は欧米諸国の影響を強く受けつつも独自のキャンプ観を形成していることも実感した。

そのため、今回のツアーで学んだことをそのまま取り入れるのではなく、日本のキャンプ観を鑑みながら今後の発展につながるよううまく取り入れていきたい。

## 付 記

本研究は、平成23年度から平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の助成を受けて実施したものである。

## 脚 注

注1) YWCA (Young Women's Christian Association) とは、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて協力し、女性の社会参画や平和な世界の実現を目指して活動しているキリスト教を基盤とした国際NGOである。1855年にイギリスで始まり、現在は125あまりの国と地域で約2,500万人の女性たちが活動している。日本では1905年に日本YWCAが創設された。(参考: 日本YWCA公式ウェブサイト, <http://www.ywca.or.jp/home.html>, 2013年5月26日参照)

注2) 野尻キャンプは、キリスト教の「神の前では皆が等しくかけがえのない存在である」という考えに基づき、優れた指導者のもと、キャンパーの自主性や民主的な雰囲気大切に教育キャンプを実施している。(参考: 東京YWCA, <http://www.tokyo.ywca.or.jp/index.cgi>, 2013年5月26日参照)

注3) 国際キャンプ連盟 (ICF: International Camping Fellowship) には252の組織、個人が加盟しており、アメリカ、カナダをはじめ、ロシア、オーストラリア、メキシコ、日本など21カ国のキャンプ協会等で構成されている。最近では、国際的なキャンプ指導者の交流として3年に一度国際キャンプ会議が開かれており、2000年には東京で第5回国際キャンプ会議が開かれている。(参考: CAMPING ON WEB, <http://www.camping.or.jp/2007/09/icf.php>, 2013年5月26日参照)

## 文 献

- 1) 社団法人日本キャンプ協会: キャンプディレクター必携. 第3版, P 10, (社) 日本キャンプ協会, 東京, 2010.
- 2) カナダ教育連盟: カナダの教育制度, <http://www.ceacanada.org/canada/canada3.htm>, 2013年5月27日参照.



